



<http://www.tomohama.org/>

絆 kizuna

平成 23 年<特別号>

Vol.8

発行 特定非営利活動法人 ともに浜をつくる会 事務局 〒 232-053 横浜市南区井土ヶ谷下町 18 番地 TEL:045-743-1172

編集責任者 理事長 石田 猛 / 編集者 石原愛子



気仙沼応援隊が訪島!!

大島の復旧・復興 に向けて立上がる!

平成 23 年 6 月 4 日 (土)、5 日 (日) の二日間に亘って、とも浜気仙沼応援隊が二度目の宮城県気仙沼大島を訪れました。今回の応援隊のメンバーは石田理事長、橋浦副理事長、石井氏 (とも浜企画担当)、石原 (「絆」編集長) の 4 名です。

今回の来島の目的は二つありました。一つは気仙沼大島の復旧・復興に向けて現地の方々との意見交換です。現地の状況を良く把握し、震災後 3 か月程たった今、何が求められているのか、何をすればよいのか、応援する側の独りよがりにならないように、現場の声を聴くことから生活支援を始めました。

二つ目は皆さんからいただいた「100 人応援メッセージ」を届ける為です。カナダのバンクーバーの小学校の皆さん、横浜・大阪・富山・名古屋からの老若男女の皆さんからの心温まるメッセージは 100 通以上も集まりました。心から御礼を申し上げます。

気仙沼大島振興協議会 メンバーと意見交換

島を訪れると、大島地区災害対策本部の白幡本部長、気仙沼市議会議員の菅原氏、気仙沼市総務部総務課大島出張所長の齋藤氏が気仙沼応援隊を迎え入

てくれました。対策本部は一回目の訪問から比べると一時の緊迫した様子も少しは和らいで見えました。何より安心したことでした。とは言え、島の状況は震災後 40 日目に訪れた様子から比べると、そこには時間が止まっているかのように、復旧が進んでいるとはおよそ見られませんでした。ガレキは 5, 6 m ほど高く積まれ、異臭とハエの多さは以前よりも増して環境の悪化を物語っています。

今までは支援として、学用品を始め数々の物資をお届けしてきました。しかし、今後は自立に向けた生活支援をどうしたらよいかという視点で、大島地区振興協議会メンバーと意見交換ができました。



今回の支援の受け入れ先である大島地区振興協議会会長の白幡氏（災害対策本部長）を始め、小松氏、村上氏の 3 氏が大島の現状を語ってくれました。

大島は 95%が漁業に従事しており、ワカメ、ホタテ、カキ、コンブが主な養殖です。養殖場は壊滅状態です。現在、大島漁協は機能しておらず、宮城県漁協がまとめている状況です。しかし、一向に復興の目途は立たず、この震災で転業や廃業者が半分ぐらいいまで増えるのではないかと危惧しています。ワカメやカキなど 6 月、7 月が種付けの時期となり、時間的に余裕がないのが、現状です。

ワカメ養殖では、ロープ、浮きなどの漁具が流さ

れ、カキ養殖では、イカダのほとんどが津波で流されている状況です。漁業者はチリ津波の借金も抱えており、今後の漁業に大きな悩みを抱えています。

今回、とも浜は三井物産環境基金助成金を申請するための情報としてお話しを伺いました。とも浜として適切な支援とは何か？

被災者の気持ちにも応えられるように、検討を重ねたいと思います。



【体験レポートー 石井彰（企画担当）】

大島では、震災後今でも専門家での海中調査が行われておりません。今回、私の知人で日本でも屈指のダイバーである河童隊の中川さんと千把さんと一緒に潜る機会を頂きました。自分の目で確かめることの大切さを実感した調査でした。気仙沼市大島の海は、水温も低く、ウエットスーツという軽装備では海水の冷さが身にしみました。また、気仙沼の海では死者・行方不明者が 1 万人にも上ると聞かされ、余計に重く、暗く、冷たい海でした。震災直後とは比較できないと思いますが、三か月が経過した現在でも、神も仏もない容赦無い惨状を目の当たりに見ることが出来ました。漁港の中には大きな障害物はほとんど撤去されていましたが、沈船に絡むロープやごみ、護岸下の窪みには瓦や子供のおもちゃ、マットレスや電化製品、生活がそのまま海に引き込まれていました。海中で胸がいっぱいになり、心と体が凍りつきそうでした。やはり、我々が出来ることをしなければならぬと強く感じました。（了）

いつまでも気仙沼大島の支援を続けていきたいと思ひます。横浜の浜の再生、気仙沼大島の浜の再生、共に緑豊かな環境になるまで、皆さまと共に活動をしていきたいと願っております。一日も早く大島の復旧が進みますようにとも浜では物資並びに浜再生のための支援の募金をお願いしています。皆さまご協力をお願い申し上げます。

とも浜事務局：TEL 045-743-1172 FAX 045-731-9859

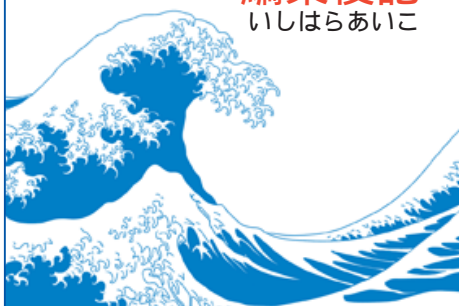
メール kizuna@tomohama.org
ホームページ：<http://www.tomohama.org/>

見てね!!



富嶽三十六景神奈川沖浪裏（葛飾北斎）

編集後記
いしはらあいこ



二度目の気仙沼大島の訪問となった。90%以上の市町村長が「産業や雇用回復の目処が立っていない」と言われている。山のように積み上げられたガレキや大型船の撤去がなされない限り、復興の道りは遠い。被災者は先が見えない将来への不安が重くのしかかり、復興への希望さえ失いかけていっている。大島地区振興協議会のメンバーである小松さんは、石田理事長が昔海苔漁師であったことが分かったと「祖父は昔、海苔養殖をやっている

した」と記憶が重なったのだろうか、言葉が詰まった。青年の希望の光が再び灯すことができるよう、とも浜ができることを具体的に提案することが必要だ。▼海岸で浜の様子を見ていたところ、60歳を過ぎた男性に声をかけられた。「あなたは何かをしているのか？私はワカメの養殖をやっている。どうしたら、助成を受けられるのか？」一民間人の私たちにも、救いを求めてきているのだ。「希望の光」が見えるまで、共に助け合い、頑張ろう！